

2020年度 委員会事業報告書

担当副理事長 浅井英昭
全員拡大実践委員会 委員長 伊藤晴康

1. 委員会開催日（12回）：

1/15 2/13 3/30 4/13 5/30 6/24 7/21 8/23
9/29 10/28 11/27 12/7

2. 事業報告：

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| (1) 例会の担当 | 3月（中止）・10月15日 |
| (2) 新入会員予定者オリエンテーションの担当 | 7月29日・8月26日・9月30日 |
| (3) 新入会員募集の担当 | 通年 |
| (4) 新入会員の拡大の担当 | 通年 |
| (5) 新入会員の育成の担当 | 通年 |

3. 委員会メンバー：

伊藤晴康 後藤芳樹 藤田哲朗 山下正人 朝日将貴 松本香澄

4. 反省点及び申し送り事項：

当委員会ではメンバーを率先して拡大に巻き込み、全員が拡大活動に関わり、新たなメンバーを増やすことを目指し活動してきました。メンバーや先輩のつながりからや、飛び込みでの拡大、拡大懇親会での候補者とのつながりづくりなど例年通りの拡大を行いましたが、行動の量的にも質的にも足りず、結果、入会者は1名のみとなり、計画性、行動の遅さ、メンバーへの働きかけ、拡大手法の工夫といった点で問題があったため、目標を達成することができませんでした。まず計画性において、十分な準備を整えずに拡大活動を行っていました。これは、メンバーへの聞き取りやラインでの情報共有だけでは十分な情報収集ができず、多くの候補者に接触することができなかったことが原因です。候補者情報を集め整理する作業を公開委員会などLOM全体で定期的に行い、有効な候補者情報をメンバーと活発に共有することで、候補者への訪問の効率を上げるべきでした。次に行動の遅さについて、十分な準備がないまま後手で拡大を行っていたことで、結果に結びつく動きや、メンバーを導くといった率先した活動が行えませんでした。遅れていることに対処するのではなく、現状を把握し、何が不足しているか、何をすべきかを判断して優先すべきことに迅速に行動することが必要でした。次にメンバーへの働きかけについて、飛び込みの拡大への呼びかけや、拡大懇親会への参加、情報の聞き取りなど、メンバーそれぞれができることを分担して拡大活動を行えば、結果とともに拡大が進むと考えていましたが、消極的な働きかけとなってしまう、メンバーが自覚をもって拡大を行う意識づけをすることはできませんでした。準備、計画段階からメンバーに参加する場を設け、メンバーそれぞれがいまするべきこと、役割を割り振って、定期的に

状況を確認し、どれくらい拡大に対して行動できているかを客観的に判断していただくといった動きができれば、拡大に対する当事者意識を高め、自覚をもって行動していただけたと考えます。メンバーそれぞれが自覚をもてば、意識のないメンバーに対しても拡大を意識する影響があると考えます。そして拡大手法の工夫では、拡大活動を行う中で、候補者となる方になかなか組織の魅力をわかっただけでない、伝えられないという問題がありました。候補者からは何をやっている団体かよくわからない、忙しくて時間が取れない、自分にはできなさそうなどといった声があり、それらを説得させられる対話ができませんでした。メンバーとともに候補者との会話のロールプレイングや話法を学ぶ場などを設け、面談の効果を上げるべきでした。

3月例会では全員の拡大への意識を変え、メンバーの拡大の意欲を高めるため、海老名青年会議所で大きく拡大の成果を挙げられた日本青年会議所組織グループ組織拡大戦略会議曾根友基議長をお呼びし、青年会議所に対する強い想いと巻き込む力、そして結果を出す戦略性をメンバーに伝えることで、拡大の可能性を感じていただこうと例会を構築しましたが、残念ながら例会を実施することはできませんでした。曾根議長が理事長の際、海老名J Cで拡大を成功させたように、当LOMでも浅井理事長が率先して拡大活動を行っていただけておりましたが、それに続くメンバーの動きをまとめる委員会としての役割を果たすことができませんでした。各例会においても浅井理事長が拡大への想いをメンバーに訴えかけてくださっていたにもかかわらず、成果に結びつかなかったのは、当委員会がメンバーに対し、具体的な行動に移せる計画や指示、予定を組んでいただき、割り振って行動していただくというサポートができなかったことが原因だと考えます。3月例会で伝えなかった青年会議所に対する想いと戦略性を、委員会としてメンバーを呼び伝えて一緒に取り組む場を設けるべきでした。

新入会員予定者オリエンテーションでは、素晴らしいトレーナーや先輩、理事長によるお話で、新入会員を有力なメンバーとして導くことができたと感じております。しかしそれは、それぞれの講師がオリエンテーションで伝えたいことを汲み取っていただけたおかげです。委員会で新入会員予定者にどうなって欲しいかを話し合いましたが、具体的なイメージを作ることができず、講師との打ち合わせで伝わりづらかったことが反省点です。基本的な知識の中で最も知ってもらいたいことは何か、魅力を感じていただくために何について伝える必要がるか、熱い思いを伝えるためにどのように聞いてもらうかなど、委員会で何を伝えたいのか、伝えなければならないのかをもっと突き詰めて話し合うことで、より具体的なイメージを講師に伝えることができたと考えます。オリエンテーションを通して新入会員予定者には、我々が日々何のために、何故青年会議所活動を行っているのかを理解していただくことができたため、学びの機会を活かせる、成長できるようなJAYCEEの礎を築くことができたと考えます。

認承式においては新入会員をメンバーとして迎え入れ、メンバーと学びを共有することで意欲を高めることができたと感じております。LOMに迎えることができた新入会員はとても意欲的で目標も高くもったメンバーとなりました。しかし、新入会員に同期メンバーを作れなかったことを申し訳なく思い、反省いたします。委員会として果たすべき役目、拡大活動への取り組みが足りていませんでした。例会の中でメンバーはLOMに対する素直な気持ちをお話いただき、活動に対する意欲を高めていただきました。10月例会で得たメンバーの活動への意欲を拡大に活かし、次年度以降も全員が拡大活動に取り組めるよう拡大を呼びかけ、意識付けをしなければならないと考え

ます。

年間を通して、委員会としての取り組む姿勢が結果的に大きく不足していたため、メンバーに対し、姿勢を示して巻き込み、メンバーそれぞれが自覚をもって拡大に取り組むという動きを作ることができませんでした。本年度を終えるメンバーの青年会議所に取り組む姿勢から、例会を通して新入会員の育成、メンバーの意欲を高めるという目的は達成したと考えますが、拡大への意識を具体的な行動に移せるように委員会として取り組むべきでした。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、通常の拡大活動が行えないという面もありましたが、コロナ禍のせいで拡大ができなかったということではありません。この状況に対応した工夫や、新たな取り組みを委員会として作ることが必要だったと考えます。このコロナ禍でもできた取り組み、状況を活かした拡大活動としては2020年度愛知ブロックでアワードを受賞された公益社団法人春日井青年会議所によるオンラインサロンがあります。自粛要請でストレスを感じている方に楽しんでもらえるコンテンツをZoomで提供し、ストレスの緩和と新型コロナウイルス感染防止を目的としオンラインサロンを実施されました。Zoomの使い方から丁寧に、在宅でできるダンスやヨガ、テレワークの講座など魅力的なコンテンツを配信し、多くの参加者を集めることで、直接の訪問ができない中でも大きな拡大の成果を残されました。しかしそれは、予定者段階で多くの候補者との関係がすでに構築された中で、この情勢を活かしてさらに拡大を発展させた結果であり、やはり拡大活動においては計画性と迅速な行動が最も重要であると考えます。その上で、コロナ禍で通常の拡大が行えない中何ができるかを委員会、LOMで話し合い、新しい挑戦をすることが必要だったと反省します。本年度は候補者情報の収集にも苦戦していたため、メンバーとZoom上で集まったの情報共有や情報整理、拡大計画を行うなど、新型コロナウイルス感染症が終息した際やコロナ禍の状況で拡大をどうするか相談などができたと考えます。また候補者にオンラインで参加していただく懇親会などを設営できれば、候補者とのつながりが作れたと考えます。こうした動きは、会員減少で苦しい中どのように拡大活動を効果的に行うかという点でも同じように、迅速に行動し、計画性をもった上でメンバーと話し合いながら工夫し、結果につなげていくという動きとして、本年度の経験を活かし取り組んでいかなければならないと申し送りさせていただきます。

5. 委員長所見：

委員長としての責任感と自覚が足りず、リーダーシップを発揮することができなかったため、委員長として果たすべき責務を全うできませんでした。自分には拡大ができないという不安と焦り、そうであってはいけないと取り繕うことしかできない状況に戸惑うばかりで、やらなければならないことの優先順位も間違い、できないことに対して悩むだけで改善する努力を怠り、巻き込むどころか自分と向き合う、活動に向き合う、メンバーと向き合うということができていませんでした。行動が足りないことで、結果が出ず、私自身の拡大が難しいと感じることを払拭することができなかったために、自信や前向きな気持ちを作れず、メンバーに対する働きかけも弱く、受け身で主体的になれないままでした。候補者を見つけて青年会議所の魅力を伝えて、仲間に誘うという拡大の活動は楽しくもありました。JCが本当に良い組織で、自らが成長できる最大の機会だと感じており、本当に仲間になってほしい、一緒に活動できる仲間を増やしたいという気持ちで候補者に接してきました。しかしそれを伝えるための説得力、聞き手が良いと思える話し方の工夫は未熟で、力不足を大いに感じました。メンバーに対して拡大活動を楽しんでやっているという姿も示すことが

できませんでした。候補者に対し、メンバーに対し、委員長としてどう見られているのかを考えて行動すべきでした。さらにやるべきことを一人で抱えて、議案構築や準備、実働をしようとしても上手くはいきませんでした。自分からメンバーに働きかけなければ、メンバー同士で助け合うこともできないと痛感しました。一人ではできないことを役割として割り振りやってもらうことが委員長に必要であり、それが委員会運営で、全員拡大実践ということにあるべきでした。

今回、社会情勢や、経済など大きく変化があったことで、入会に踏みとどまってしまったという候補者もいるはずです。苦しい状況の中でも青年会議所活動を頑張っているメンバーの姿を知っていただき、社会のどんな状況にも負けず、地域のために新たな挑戦を続けようとする青年会議所の価値を伝えていきたいと感じています。本年度できなかったことを忘れず、次年度以降の活発な拡大を支援していきたいと考えます。

最後に、拡大にご協力いただいたすべてのメンバー、そして、支えていただいた委員会メンバーに感謝を申し上げ、委員会所見とさせていただきます。ありがとうございました。

6. 収 支 決 算 :

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	30,000	事業費	10,000	(2)	30,000	(2)	10,000
合 計	30,000	合 計	10,000	合 計	30,000	合 計	10,000